

# 資料編

名取市内の被災状況等

連携プロジェクト検討経過のアイデア

## 名取市内の被災状況等

### ①人的被害の状況

今回の震災は、市内各地に甚大な被害をもたらしましたが、特に、沿岸部の閑上地区と下増田地区においては、津波による壊滅的な被害を受けており、人的な被害も多く出ています。

また、震災直後（3月12日現在）には10,715人が避難所に身を寄せ、震災から約2ヶ月が経過した5月16日現在でも905人の方々が避難所での生活を強いられていました。応急仮設住宅の建設により、6月22日には全ての避難所を閉鎖しましたが、現在でも仮設住宅などで多くの方々が何かと制約の多い生活を余儀なくされています。

表：名取市の被害状況と避難の状況

	3月12日 現在	5月16日 現在	8月22日 現在	備 考
遺体収容数	—	901体	911体	名取市内での遺体収容数
	—	792体	872体	遺族引渡し遺体数
	—	731体	805体	遺族引渡し遺体のうちの名取市民の遺体数
不明者数	—	148人	76人	
避難所数	52箇所	9箇所	0箇所	
避難者数	11,223人	905人	0人	市民以外も含む

※名取市作成

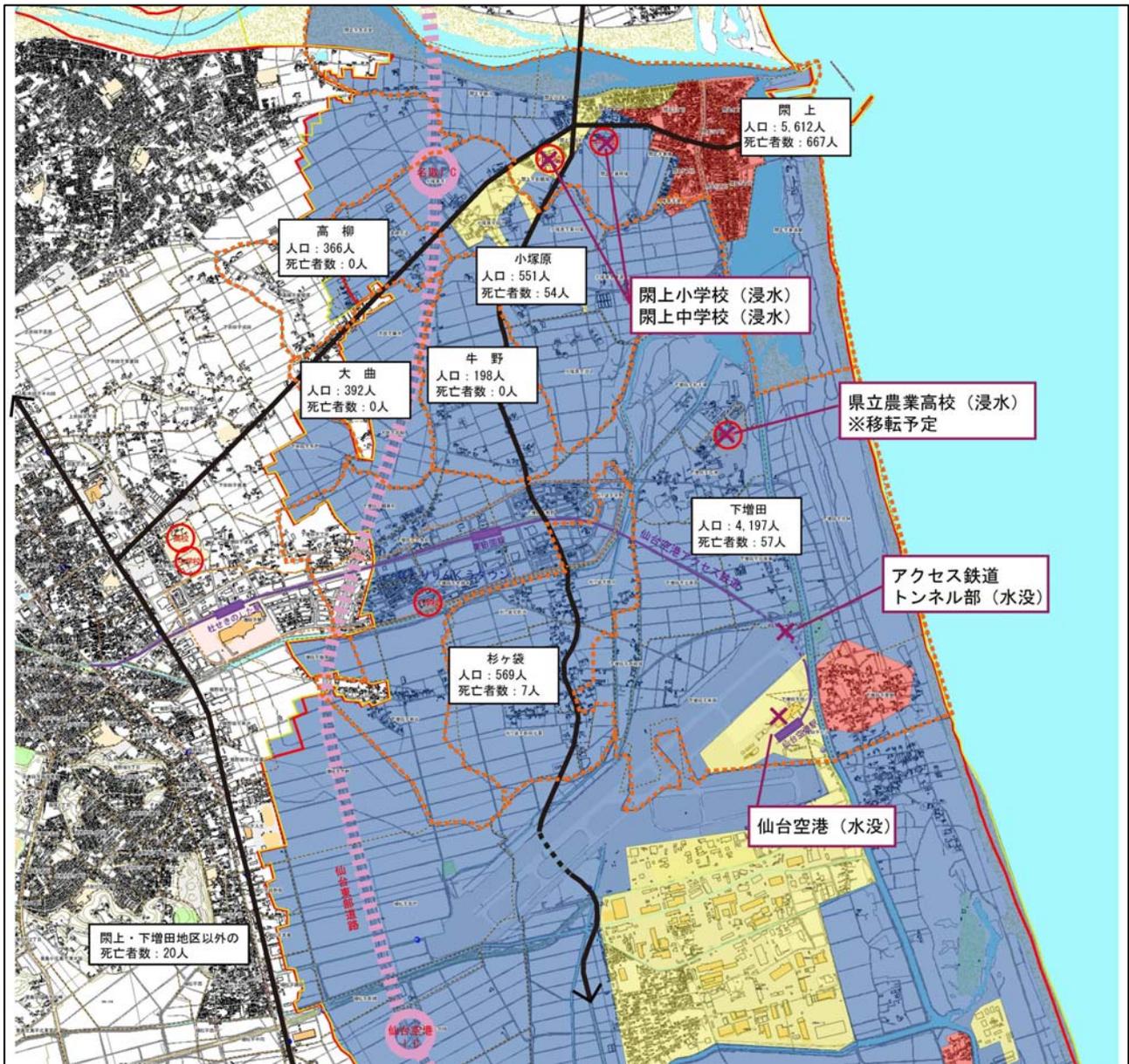
※名取市外において収容された市民遺体収容数59人（警察発表分）は、含まれていない。

表：名取市における応急仮設住宅の建設状況

名称	建設場所	1DK	2DK	2K	3K	合計(戸)	着工
箱塚桜	箱塚一丁目12	21	60		21	102	H23. 3. 28 完成
箱塚屋敷	手倉田字箱塚屋敷	24	54		24	102	H23. 4. 5 完成
同 上	同 上	12	54		12	78	H23. 4. 13 完成
美田園第一	下増田字前田		128			128	H23. 4. 13 完成
美田園第二	下増田字飯塚		120			120	H23. 4. 13 完成
愛島東部	愛島笠島字		182			182	H23. 4. 20 完成
美田園第三	下増田字土手北		27			27	H23. 4. 20 完成
植松入生	植松字入生		150			150	H23. 5. 27 完成
雇用促進住宅 愛島宿舎	名取が丘六丁目7			196		196	完成
合 計		57	775	196	57	1,085	

※住戸タイプ：1DK（6坪）、2DK（9坪）、3K（12坪）

※平成23年7月9日 現在



凡例

地区名  
 人口：(平成23年2月末人口) ※1  
 死者数：(平成23年8月22日) ※2

- 浸水区域※3
- 主に損壊家屋が多い区域
- 流失家屋の多い区域

※1：人口は名取市住民基本台帳  
 ※2：死者数は、遺族に引き渡した遺体の住民登録別に区分  
 ※3：国土地理院発表による浸水区域

図：東北地方太平洋沖地震による浸水区域と人的被害

## ②家屋等の被害状況

市内では、罹災証明交付件数が3万件を超え、住宅11,889棟、非住宅2,419棟の家屋が被害を受けました。

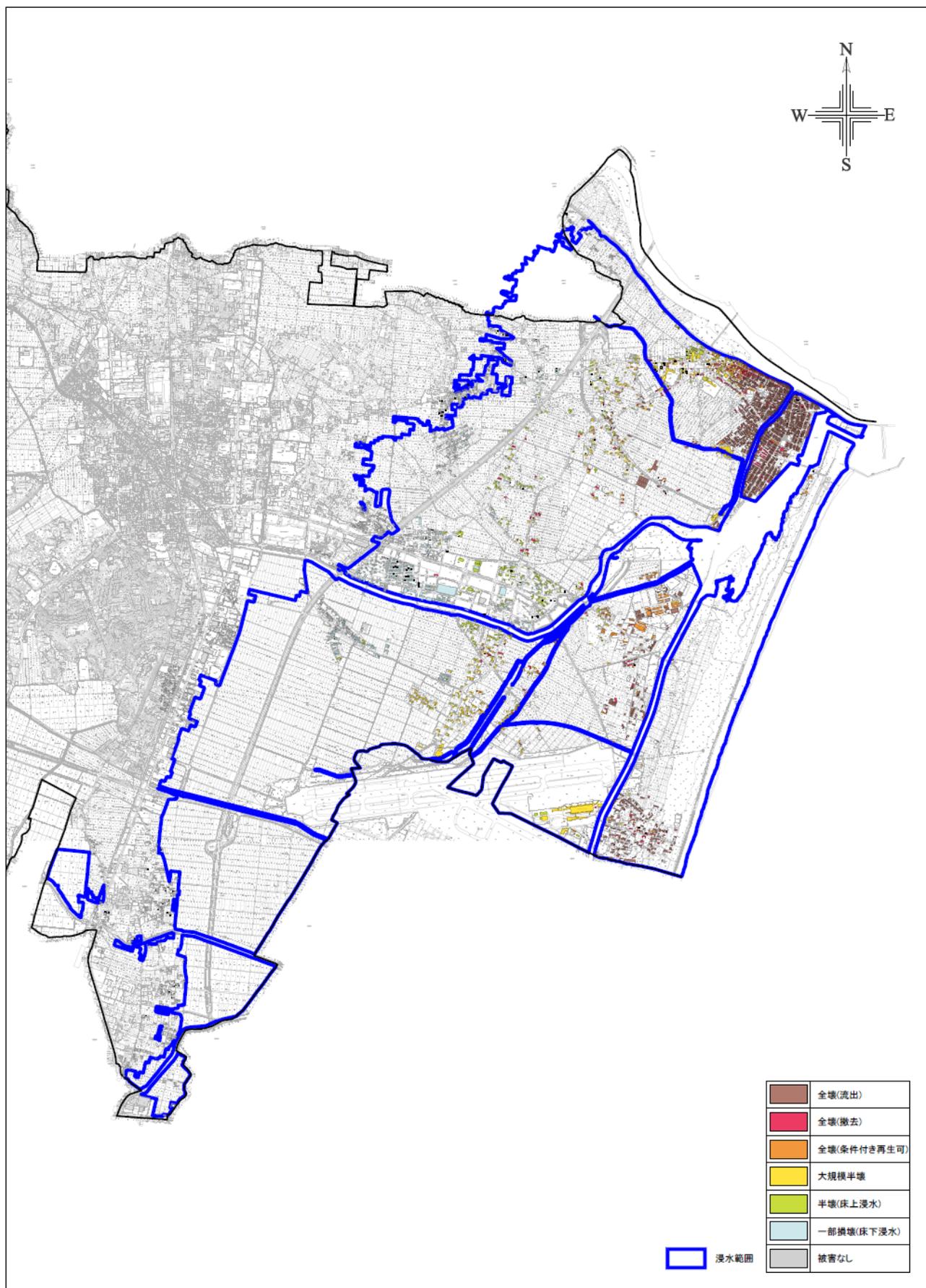
なかでも、閑上1～7丁目（市街化区域）や、北釜地区をはじめとする下増田地区の増田川以東のエリア、小塚原の集落などの沿岸部では、家屋の全壊（流出・撤去）が多数を占め、火災も発生するなど、津波によって甚大な被害を受けました。

内陸部においても、屋根瓦の崩落、外壁への亀裂、宅地の不等沈下、塀の倒壊などが見られ、被害は市内全域に及んでいます。

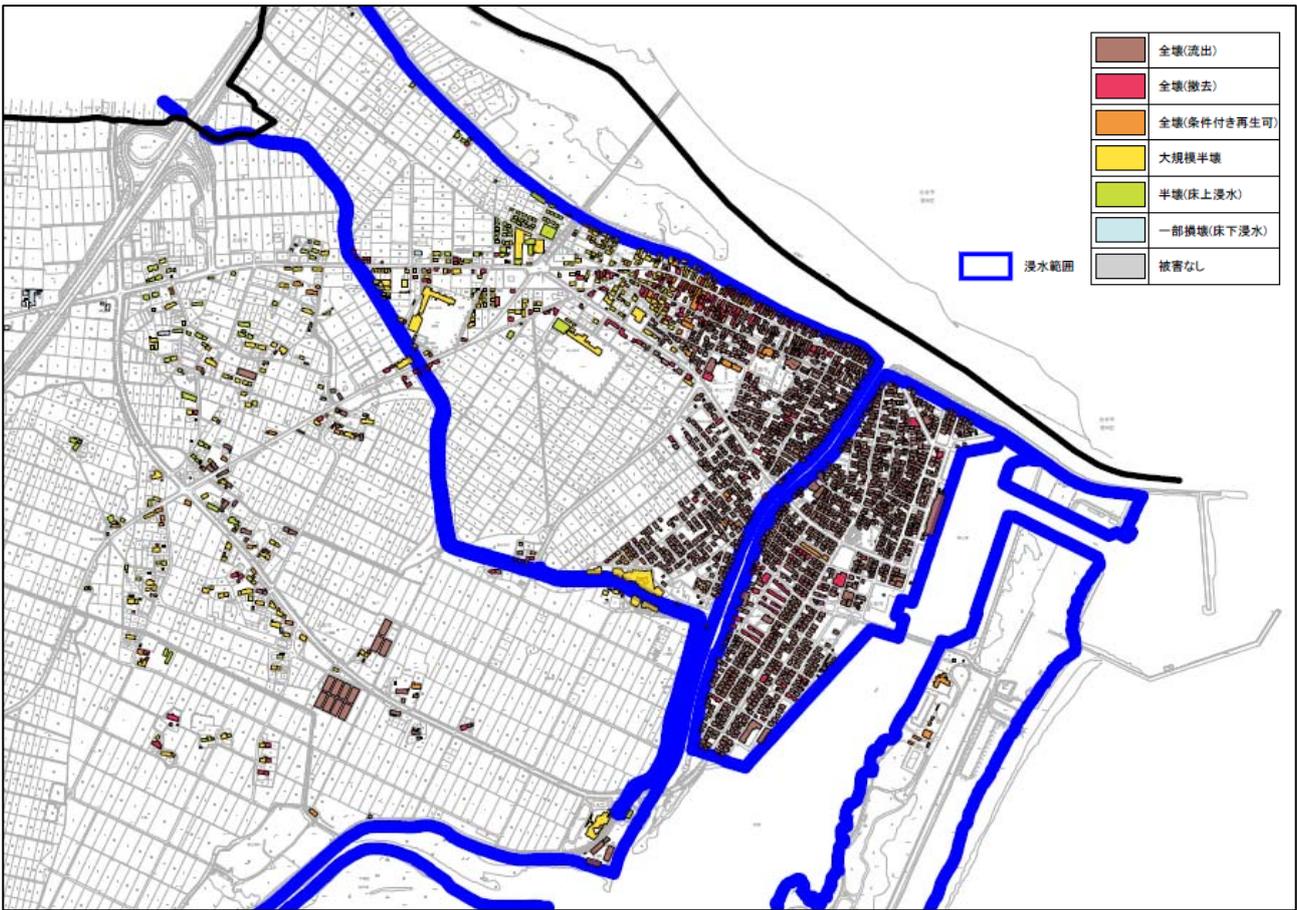
表：名取市内の家屋の被害状況（概略）

（平成23年8月19日現在）

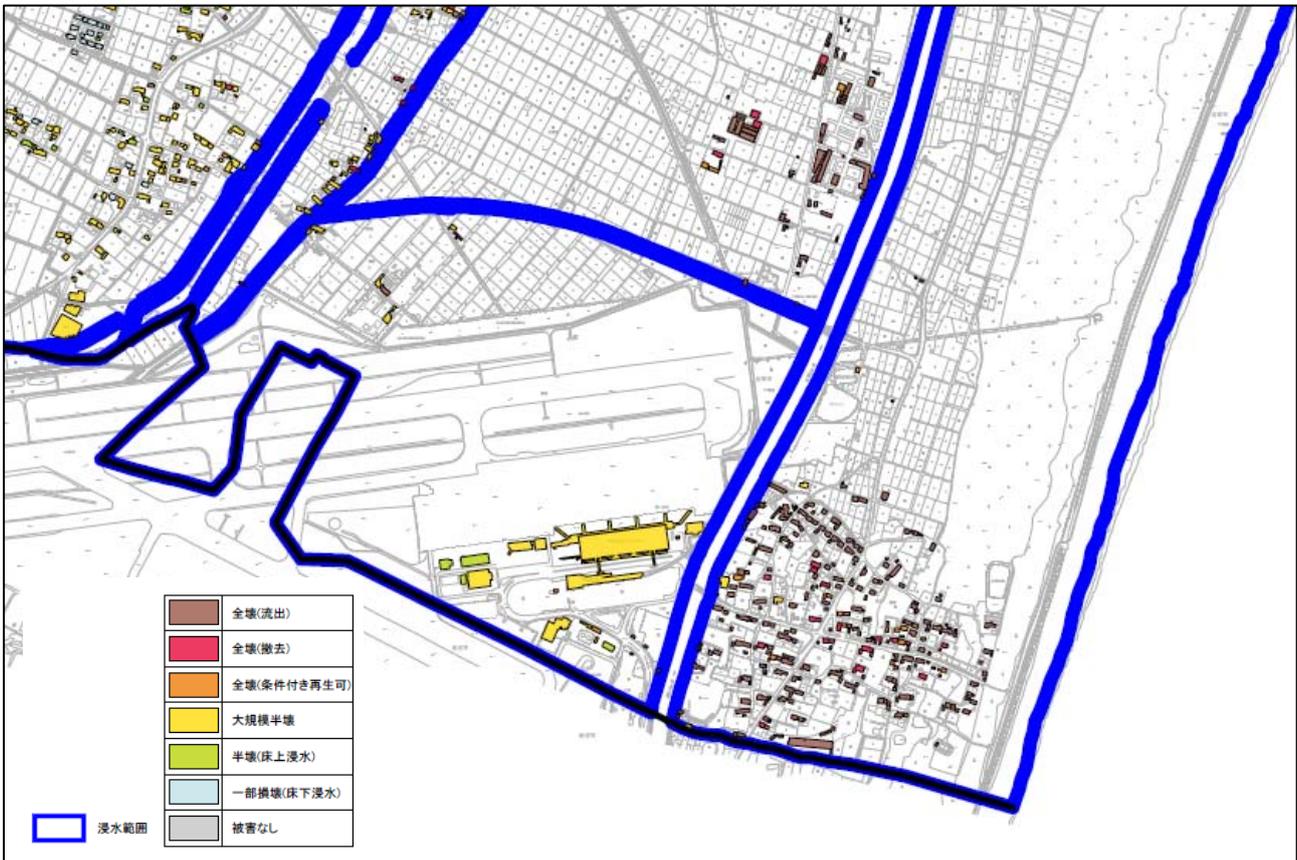
内 容			件 数	備 考
1	罹災証明 受付件数	一次調査	32,571 件	家屋等 ※罹災証明上の数値
		再調査	1,378 件	
2	罹災証明 交付件数	一次調査	31,874 件	家屋等 ※罹災証明上の数値
		再調査	1,166 件	
3	住宅被害 状況	全 壊	2,788 棟	
		大規模半壊	214 棟	
		半 壊	717 棟	
		一部破損	8,170 棟	
		合 計	11,889 棟	
4	非住宅 被害状況	全 壊	922 棟	
		大規模半壊	123 棟	
		半 壊	251 棟	
		一部破損	1,123 棟	
		合 計	2,419 棟	



図：家屋被害状況図（名取市内の津波の浸水範囲）



図：家屋被害状況図（名取市閑上地区周辺）



図：家屋被害状況図（名取市下増田地区周辺）

### ③各施設の被害状況

震災によって、都市基盤施設、公共施設、産業関連施設など、市民の暮らしや産業を支える施設が市内各地で大きな被害を受けました。

都市基盤施設では、道路が393箇所で沈下・陥没・亀裂・段差などが生じたほか、公園、上・下水道も被害を受けました。特に、下水道の被害額が大きくなっています。

公共施設では、市庁舎や名取駅の東西自由通路、幼稚園・小中学校等35施設など、市内全域にわたって被害が生じています。沿岸部では、市営住宅や保育所、斎場、消防施設など、多くの施設が津波の被害を受けています。

産業関連でも、漁港や漁協などの水産施設のほか、沿岸部の広大な田畑が津波によって大きな被害を受けました。排水機能の被害によって、浸水を免れた農地も作付けを控えざるを得ないなど、間接的な影響も大きくなっています。

表：名取市内の施設の被害状況

施設	概算被害額（千円）	被害の詳細
<b>都市基盤施設</b>		
道路（橋梁）	1,959,015	道路 393 箇所（沈下、陥没、亀裂、段差） 橋梁 7 箇所（下部構造亀裂）
公園	1,058,802	47 箇所（遊具、フェンス等損壊）
下水道	8,074,088	10 箇所（ポンプ場稼働停止、一部損壊）
上水道	181,876	530 件（本管、給水管漏水等）
<b>公共施設等</b>		
市営住宅	2,500,000	市営住宅 14 棟（109 戸、入居者 243 人）住宅全壊
庁舎	54,431	水道管破裂、外壁・議会棟天井破損等
都市施設	24,000	名取駅東西自由通路、名取駅コミュニティプラザ
福祉施設	581,950	閑上保育所、老人福祉センター全壊、 他 3 施設（躯体以外全壊、外構陥没・亀裂）
教育施設	2,498,100	幼稚園・小中学校等 35 施設（天井・壁落下等）
生活経済施設	1,682,353	斎場等 5 施設（外壁破損、天井落下）
消防施設	227,427	閑上出張所、消防団詰所車庫 8 棟等
その他施設	274,093	集会場 10 棟、緩衝緑地、防災行政無線損壊等
<b>産業関連施設</b>		
水産施設	6,268,200	閑上漁港事務所、県漁協閑上支所で津波被害
農業施設	46,320,400	田 1,407ha、畑 270ha、揚排水機場等
計	71,704,735	

※平成 23 年 6 月 27 日現在

## ④津波の浸水深（痕跡）調査結果

平成23年3月11日(金) 14時46分頃の地震発生から約1時間後には、本市の沿岸部に津波が到達し、6回程度の津波が押し寄せたものと目撃者の証言等から推定されています。

浸水深は、津波の痕跡から見て、関上漁港付近で6～8m、県道塩釜亘理線の東側付近（小塚原地内）で2m前後と推定されます。

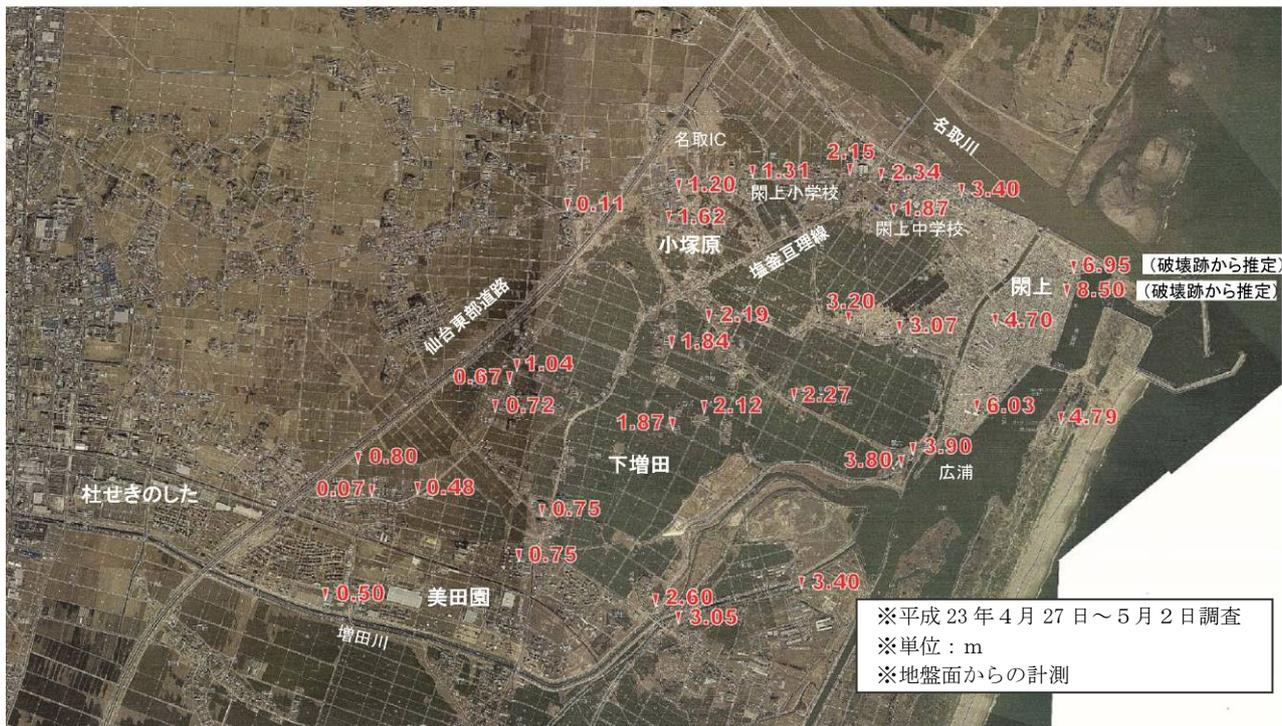
下増田地区では、北釜地区や広浦地区で、浸水深は3mを超えたものと推定されます。

表：津波の浸水深（津波痕跡調査）

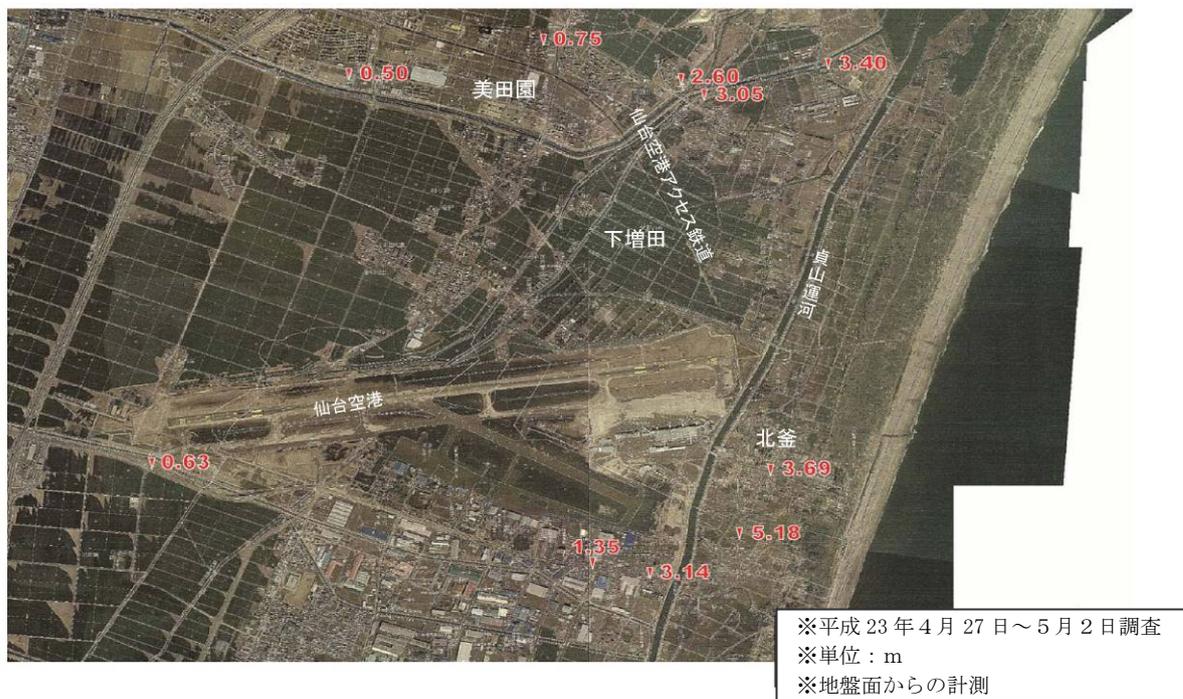
場 所	浸水深	備考
名取市サイクルスポーツセンター付近	4.79m	
関上漁港付近	6.95m、8.50m	破壊跡から推定
関上5丁目付近	6.03m	
関上6丁目付近	4.70m	
斎場付近	3.80m	
関上中学校付近	1.87m	
関上小学校付近	1.31m	
県道塩釜亘理線の東側付近	1.84m、2.19m	小塚原
名取IC付近	1.20m	
宮城県農業高等学校付近	3.40m	
北釜地区付近	3.69m	
下増田小学校付近	0.50m	

※地盤面からの計測

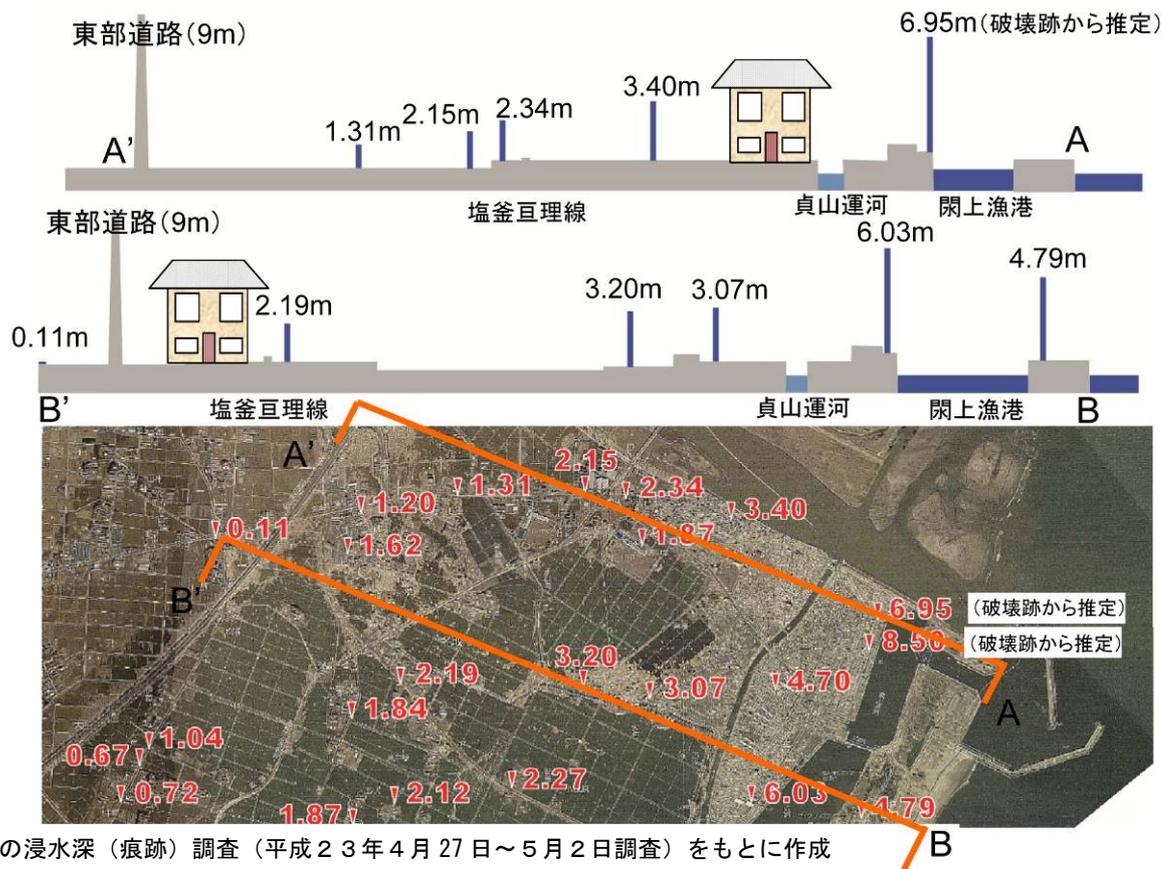
※平成23年4月27日～5月2日調査



図：津波の浸水深（名取市関上地区周辺）

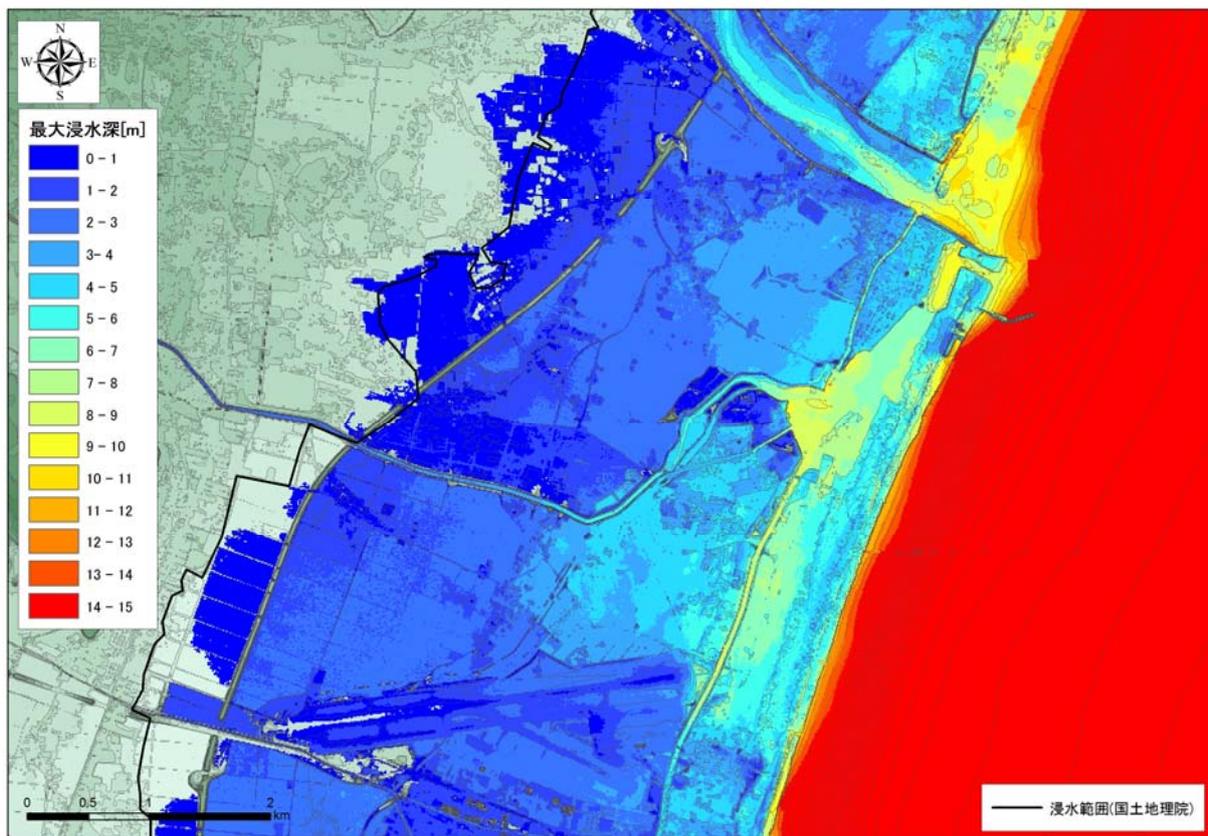


図：津波の浸水深（名取市下増田地区周辺）

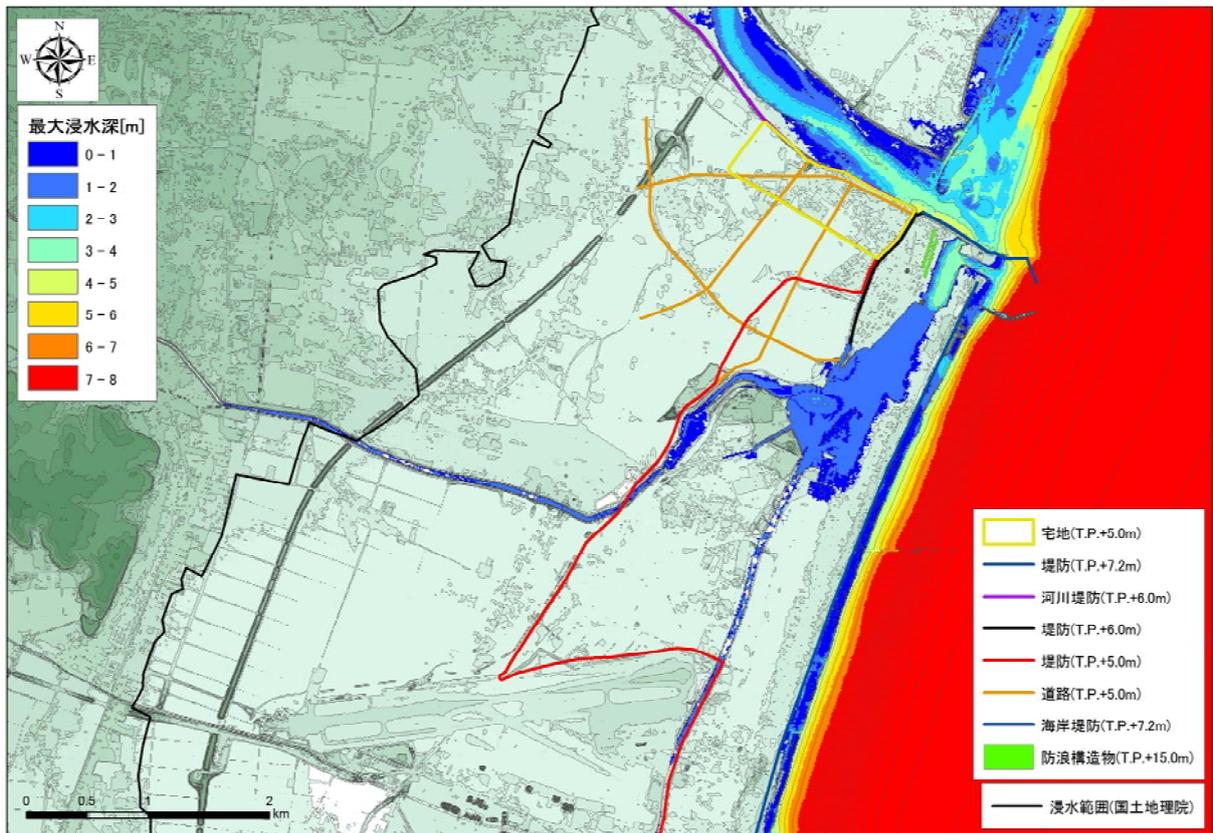


図：津波の浸水深（断面概略図）

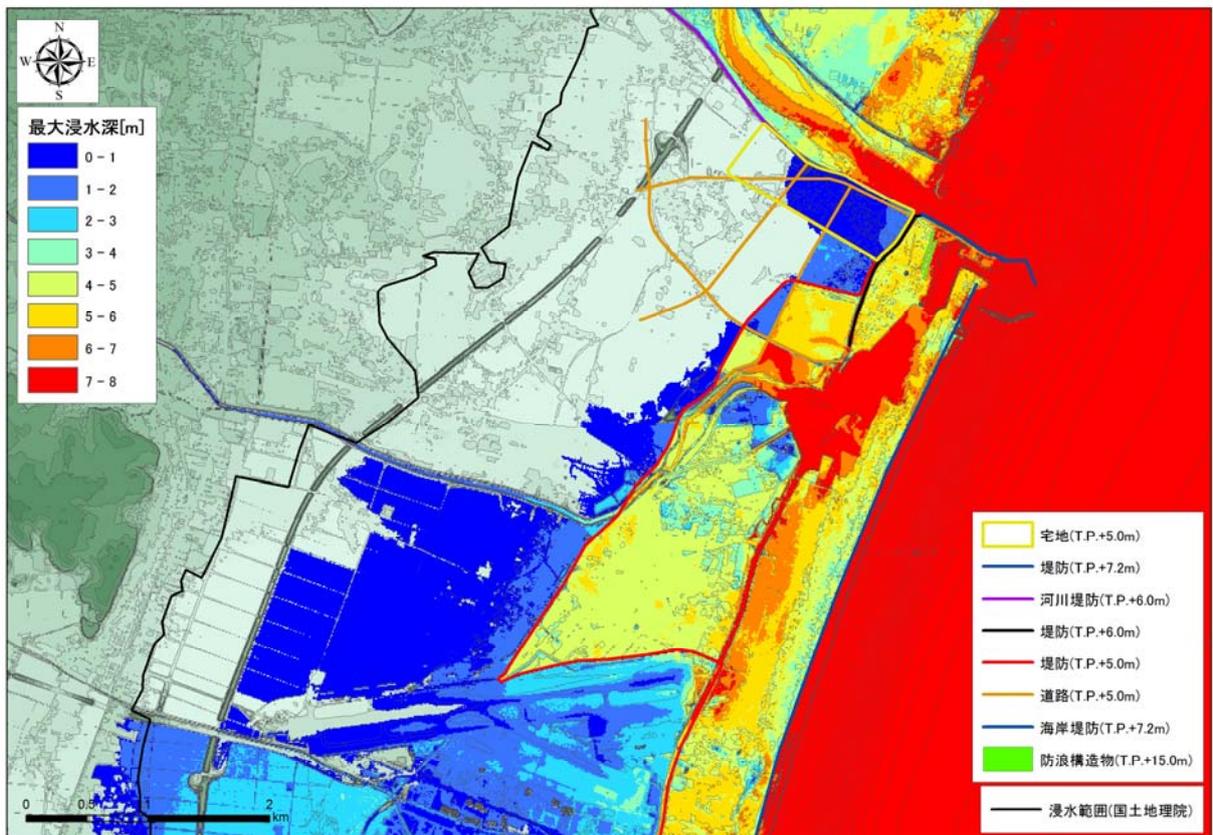
⑤津波シミュレーション結果



図：2011. 3. 11 の津波を再現したシミュレーション結果



図：C案における津波シミュレーション結(明治三陸沖(1896年)地震の津波を再現)  
 津波防護レベル(レベル1相当)



図：C案における津波シミュレーション結(2011.3.11の津波を再現)  
 津波減災レベル(レベル2相当)

### 連携プロジェクト検討経過のアイデア

※ここに記載したアイデアは、連携プロジェクト検討にあたり、名取市新たな未来会議ワーキンググループにおいて整理されたものです。

※将来イメージや課題、市民・企業等に期待される役割は、連携プロジェクトを検討する段階での想定であり、プロジェクトの具体化の方策については、事業化の段階で検討されるものと想定しています。

## 連携プロジェクト検討経過のアイデア

### ① 関上と下増田のまち再生プロジェクト

#### ● 連携プロジェクトが想定する将来イメージ



#### ◇「想定外」の対応も想定する地域防災

津波に対する多重防御等、沿岸部の総合的な安全対策を講じた上で、「想定外」の事態や高齢者等の支援を要する住民の避難を想定した地域防災計画のもと、学校施設やコミュニティ施設や公園、避難場所・避難路等の配置を検証

#### ◇「恐かった津波」「恵み豊かな海」の正しい知識を身につけ、学べる環境

子どもたちが海辺で、大人と交流しながら、いきいきと楽しめる遊び場をつくるとともに、津波と海の正しい知識を身につけ、海との絆を取り戻す学習・体験の機会を創出

#### ◇子どもを見守り、多様な世代が関わり合うコミュニティの中心エリア

関上地区では、学校施設・公民館、子育て支援施設・消防署・公園等について、防災拠点としての一体的整備や一定のエリアでのまとまった再建も視野に入れた配置を検討

#### ◇多様な世代の居住

持続的なコミュニティを形成するため、多様な世代の集住が可能な住宅再建・供給を推進・誘導

- ・災害公営住宅、市営住宅
- ・高質な集合住宅
- ・ケア付コレクティブハウス
- ・ファミリー用シェアハウス
- ・公的機能を併設する複合的な住宅 等

#### ◇生活利便性

住宅再建にあわせて、子育て、医療・介護ケア、買物、公共交通など、日常生活の利便性を確保するサービス・機能を整備・誘致・運営

#### ◇新たな居住の魅力

復興を通じて、近郊からの新しい居住を呼び込める魅力を創出

- ・次世代のエネルギー利用環境とライフライン
- ・地域サービスやエネルギー利用、防災等の情報ネットワーク 等

#### ● 推進に向けた短期的な検討課題

- ◇復興に向けた地区の協議体制の構築と事業推進（復興の事業計画策定、調整、合意形成等）
- ◇復興まちづくりの情報発信とコミュニケーションの推進
- ◇コミュニティ復興のあり方を地区で考えて実行する計画策定と体制づくり
- ◇PFIや、公設民営、指定管理者制度など、公共公益施設の配置や公共サービスの提供、多様なタイプの住宅供給体制の構築
- ◇海辺の学習・体験・遊びの場の整備

など

#### ● 市民・企業等に期待される役割

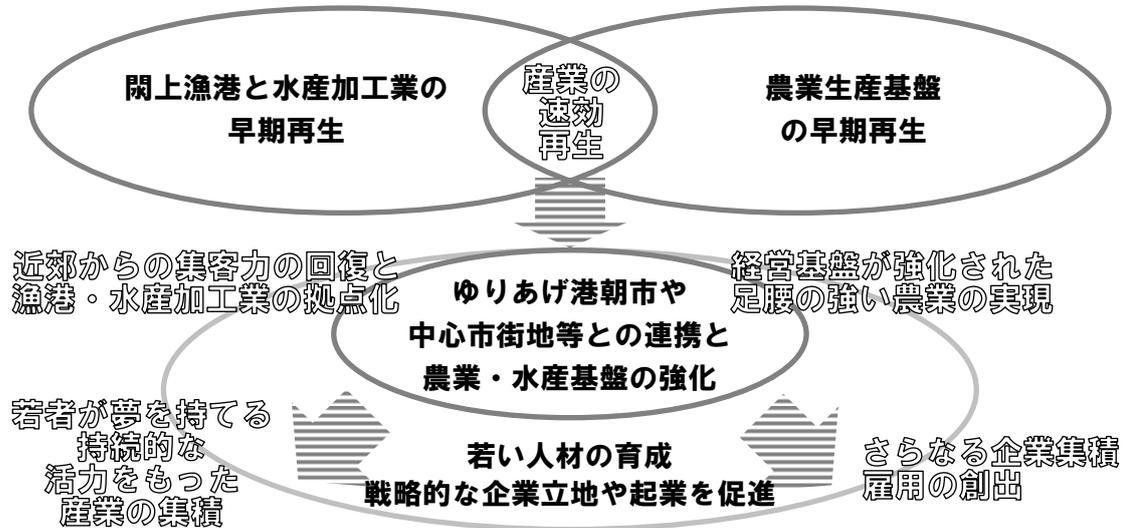
- ◇復興のための地区主体のまちづくり活動やコミュニティ再生の推進  
(検討、計画策定、実行)
- ◇自主防災組織の設立と災害時避難への対応
- ◇地域の祭や伝統行事の再開
- ◇積極的な住宅供給への参加（民間事業者）
- ◇NPOなどによる遊び場（プレーパーク）の運営への参加

など

② 産業の速効再生プロジェクト

連携プロジェクト  
検討経過のアイデア

● 連携プロジェクトが想定する将来イメージ



◇ 関上漁港と水産加工施設、交通インフラの早期再生

漁港及び市場や交通インフラの再建にあわせて、仮設工場から耐浪型の恒久的施設まで、水産加工業が段階的に事業再開できる環境づくりを推進し、生産機能と職を回復

◇ 農業生産基盤と農業経営の集約・強化

園芸農業施設の復旧、大区画ほ場整備の推進等を通じて農業生産基盤を再生し、営農再開の環境づくりを推進するとともに、地域農業の組織経営化、農地利用集積の促進等を通じて、農業経営基盤を強化

◇ 世界に通用する品質管理と仙台近郊の立地で水産加工業が集積する関上漁港

仙南の拠点港を目指した市場機能や水産加工業の共同利用施設等の整備、衛生認証取得などの管理強化、避難路を兼ねたICに直結する道路整備等を通じて水産基盤を強化し、他地域からの水産加工業や技術を集積

◇ “食”の交流を契機にした新たな地域ブランド

ゆりあげ港朝市や、中心市街地の賑わいイベントなどでの“食”の交流を通じて、漁業・水産加工業・農業の連携が進み、新たなブランド価値を創造

◇ 新たな起業や産業連携、イノベーションを担う若い人材の育成

地域の学校や近隣の大学・研究機関との連携を通じて、地域産業のイノベーションや産業連携、ブランド創造等を担う若い人材を育成

◇ 新たな企業の立地と起業による雇用の拡大

戦略的な企業立地と起業の促進を通じて、既存の地域産業が培ってきた技術を生かした新しい農水産物、商品・サービスを開発し、プロモーションを展開

● 推進に向けた短期的な検討課題

- ◇ 産業再生の戦略づくりと協議体制の構築
- ◇ 産業復興の事業計画策定、調整、合意形成等
- ◇ 世界に通用する品質管理と仙南の拠点港を目指した基盤整備の事業化検討
- ◇ “食”をテーマとした漁業・水産加工業・農業の連携と新たなブランド開発・プロモーションの環境づくり
- ◇ 新たな企業誘致や起業と既存の地域産業との技術連携・マッチング等の環境づくり

など

● 市民・企業等に期待される役割

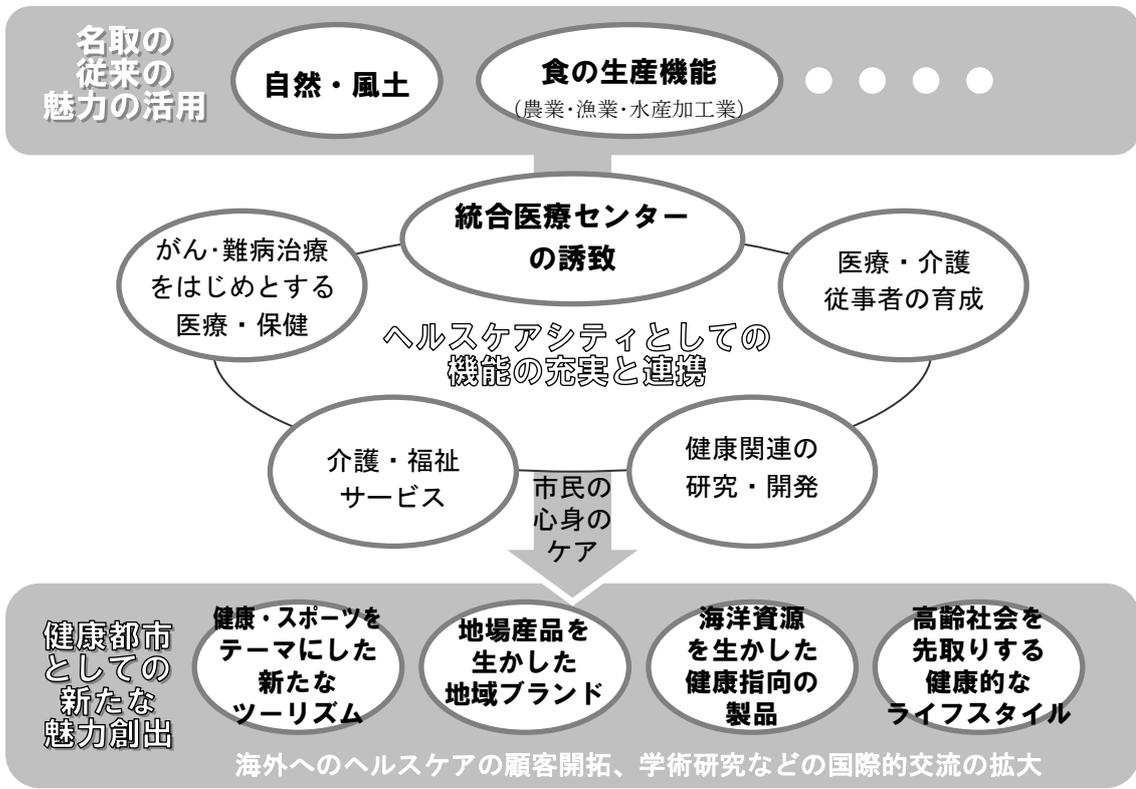
- ◇ 漁の早期再開、防浪施設と一体となった水産加工場の早期再建
- ◇ 地域人材の積極的な雇用
- ◇ “食”をテーマとした新たなブランド開発・プロモーションのための組織の設立・運営
- ◇ 名取の地場産品の販売、地場産品を活用した名物料理の開発（市内商店・飲食店等）

など

③ 統合医療で元気プロジェクト

連携プロジェクト  
検討経過のアイデア

● 連携プロジェクトが想定する将来イメージ



◇健康をテーマにした新たなツーリズム

健康診断や医療行為の受診、海をはじめとする名取の自然で心身を癒すなど、週末や短期滞在を想定した新たなツーリズムを開発

◇海洋資源を生かした健康指向の製品

研究機関との連携を通じて、水産物や海水等に含まれる有効成分を活用した健康指向の製品を開発

◇地場産品を生かした地域ブランド

健康関連の研究と漁業・水産加工業・農業の生産技術の連携を通じて、新たな特産物の開発やブランドとしての価値を創造

◇高齢社会を先取りする健康的なライフスタイル

医療・健康、介護・福祉のネットワークと、自然と親しめる風土を背景に、健康的なライフスタイルをテーマにした居住を推進

◇医療・研究等をテーマとして国際的に拡大する交流圏

仙台空港からの近接性を生かして、海外へのヘルスケアの顧客開拓のほか、学術研究などの国際的な交流を拡大

● 推進に向けた短期的な検討課題

- ◇統合医療センターを核としたヘルスケアシティの構想の具体化と関係機関調整・コーディネート
- ◇核となる統合医療センターの誘致計画の具体化と条件整備
- ◇ヘルスケアシティとしての関連機能充実のための環境づくり  
(具体化した構想に基づく誘致活動、土地利用や誘致に関する条件整備等)

など

● 市民・企業等に期待される役割

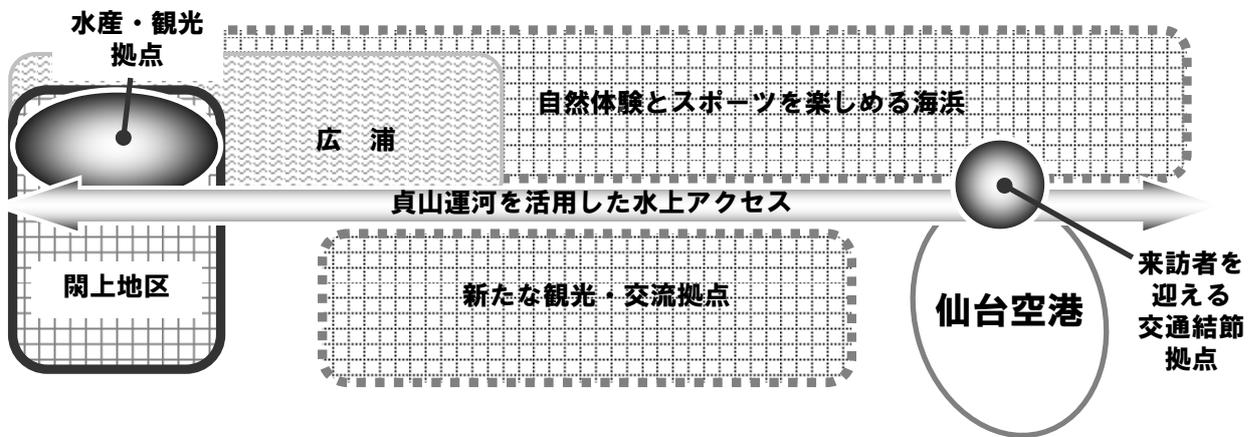
- ◇高齢社会を先取りした健康都市づくりに向けた推進体制づくり  
(健康をテーマにした新たなツーリズム開発の体制)  
(新たな地域ブランド育成や製品開発にむけた研究機関との連携)  
(健康指向のライフスタイルを創造するための医療・ケアの連携)
- ◇名取の自然・風土を楽しみながら短期滞在・週末滞在ができる環境づくり

など

④ 空の道・水の道交流プロジェクト

連携プロジェクト  
検討経過のアイデア

● 連携プロジェクトが想定する将来イメージ



◇来訪者を迎える交通結節拠点

仙台空港の利用者を名取に迎え入れ、送り出すためのゲートウェイとして、円滑な乗換えや情報案内、サービス等の機能を導入

◇貞山運河を活用した水上アクセス

仙台空港から閑上地区をつなぎ、貞山運河を利用して、来訪者を名取に誘導する水上のアクセスルートを整備

◇新たな観光・交流拠点（貞山運河西側）

宿泊、健康・リラクゼーション、海の学習・研究・交流施設など、仙台空港を利用する多くの人々が名取を訪れる目的とする魅力ある観光・交流機能を充実

◇自然体験とスポーツを楽しめる海浜

広浦のスポーツ利用（例えば漕艇場）に向けた整備と浚渫土の活用など、海浜の防災対策と一体となって、自然体験とスポーツを楽しめる場を再生

◇水産と観光の拠点（閑上・貞山運河東側）

海の様々な魅力を楽しむ拠点として、フィッシング、マリーナ、ビーチ、朝市などの機能を再生・強化

● 推進に向けた短期的な検討課題

- ◇沿岸地域活性化振興ビジョンの策定と行政・事業者等の役割・協働のあり方の検討
- ◇民間投資などを活発化させるための環境整備
- ◇海浜と貞山運河・広浦の再生・活用に向けた国・県との協議調整
- ◇閑上漁港と水産加工業の再建を連動した閑上地区における水産・観光拠点のビジョンと事業化検討
- ◇津波被害を受けた農地の集約・再編と連動した再生困難な農地の活用方策の検討（仙台空港からの近接性を生かした観光・交流拠点としての活用可能性検討）
- ◇貞山運河・広浦周辺の観光軸としてのポテンシャルを踏まえた水上アクセス及び仙台空港につながる交通結節拠点の整備のあり方の検討
- ◇民間事業者の参入の環境づくりの検討

など

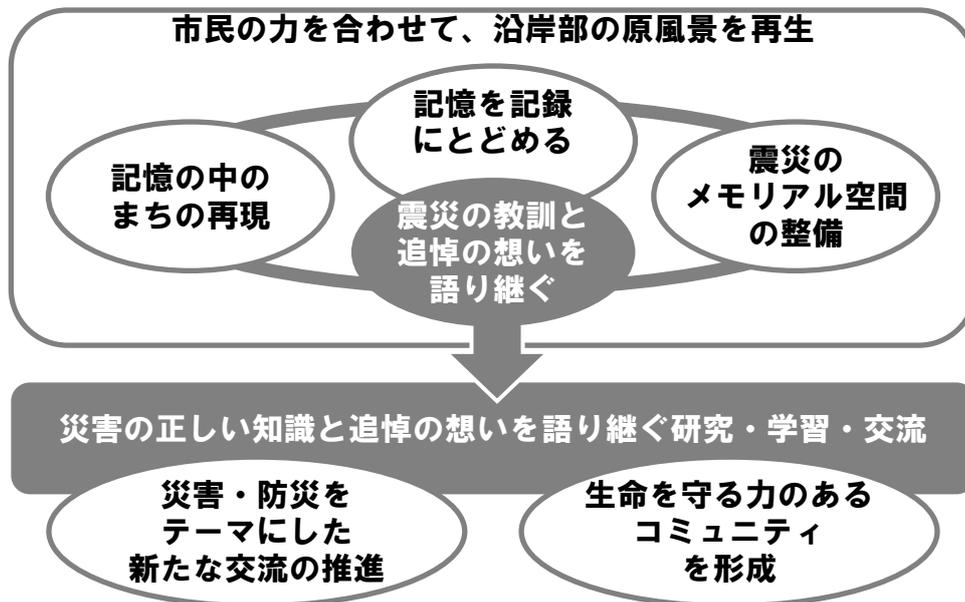
● 市民・企業等に期待される役割

- ◇ビジョンにそった事業参入（投資）と地域人材の雇用（民間事業者）
- ◇NPOや市民による観光ボランティアガイドの要請・実施

など

⑤ 記憶のまちプロジェクト

● 連携プロジェクトが想定する将来イメージ



◇沿岸部の名取の原風景

たくさんの市民の力を生かして、浜や防潮林、広浦、貞山運河、増田川などの豊かな自然や歴史遺産などの原風景を再生

◇震災の記録・記憶をとどめるアーカイブス

震災の記憶・記録を蓄積・整理し、教訓として活用できるよう資料化・教材化を進めるとともに、公開・閲覧の施設等を確保

◇記憶の中のまち（閑上の面影）

舟運のまちとしての名残を残す町割りや昔ながらの商店の看板等、まちの面影を感じる市街地を再建

◇震災のメモリアル空間

日和山を核として、メモリアル空間を整備（追悼のイベント、犠牲者を偲び、祈る場所、震災からの復興を実感する象徴など）

◇災害・防災をテーマにした新たな交流

震災後のボランティア・支援活動、追悼のイベント、防災研究・学習を通じて新たな交流を拡大

◇生命を守る力のあるコミュニティ

震災の教訓を生かした研究・学習・交流を通じて、災害の正しい知識と避難（減災）の方法などの定着を学校教育から地区へと拡大

● 推進に向けた短期的な検討課題

- ◇地域資源再生に向けた国・県・隣接市等と連携・調整
- ◇震災の記憶・記録の早期の収集・資料作成の体制づくりと公開・閲覧場所の確保
- ◇閑上地区の復興に向けた事業計画に取り込むための「記憶のまち」「震災メモリアル空間」のイメージの具体化

など

● 市民・企業等に期待される役割

- ◇次代へと震災を語り継ぐ市民活動の展開
- ◇災害・防災をテーマにした交流と人材・組織のネットワークづくり
- ◇学校から地区へと拡大する防災学習・防災訓練の体制づくり
- ◇震災メモリアル施設の運営の参加

など



図：沿岸部復興イメージ